

いつまでも住み慣れた地域で暮らせるように

問 長寿支援課地域包括支援係 ☎72-7551

現在、小郡市では4人に1人が高齢者(65歳以上)となっており、高齢化の進展とともに認知症の人も増えています。認知症への偏見・差別をなくし、認知症の人が尊厳と希望を失うことなく、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現することが重要です。

生まれ育った土地、住み慣れた地域で自由に外出したいという思いは、認知症の人も同じです。そのため市は、認知症に関する啓発講座や、地域コミュニティと連携した地域の見守り活動などに取り組み、認知症の人やその介護者が安心して暮らせる地域づくりを行っています。

小学生が認知症サポーターに

市は、認知症に関して知ってもらい、認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」の養成講座を行っています。

この養成講座は、毎年市内の小学校でも開催しており、小学生たちに認知症に関する劇や映像を見てもらった後、高齢者への声かけの仕方などを話し合ったり、劇に参加してもらったりしています。受講後は、認知症サポーターの証である「オレンジリング」を配布しています。



▲オレンジリング

地域で見守り、安心して暮らせるように

立石校区では、平成28年から協働のまちづくり協議会主催で「立石SOSネットワーク検索、声掛け模擬訓練」を行っています。これは、過去に立石校区で行方不明者が出た際に、検索するも見つけることができなかったという辛い経験から始まりました。

訓練では、認知症サポーター養成講座を受講した後、受講者同士でチームを組んで校区内を搜索し、行方不明者役に声かけをするなどの実践を行います。訓練に参加した住民からは「訓練のおかげで、気になった人に声かけをして行方不明を事前に防ぐことができた」「声かけは1回訓練したからできるというものではない。継続して訓練することで自信がつき、1人の時でも声かけができる」といった思いを話してくれました。



認知症サポーター養成講座の開催を希望する場合は、お問い合わせください。